



持参した自己圧力計を配管に取り付け、漏洩試験、メーターガス栓の内通試験、燃焼器入り口圧力の測定、圧力測定と燃焼状況の確認、調整圧と閉塞圧の測定など一連の計を使いモデル配管の漏れを体験した。

エネ減収も増益
Misumi 中間決算
 Misumi (本社・鹿児島市、岡恒憲社長) が11月11日に発表した2020年3月期中間連結決算は、売上が前年同期比2・9%減の278億4100万円、営業利益が同56・5%増の4億4400万円、経常利益が同34・6%増の6億2500万円、純利益が同41・3%増の3億9800万円だった。

エネルギーセグメントはガス部門で訪問活動による新規開拓やガス関連商品提案、住設機器の展示会など顧客との関係強化に努め、集中監視システムによる業務効率化とIoTを活用したサービスを推進。石油部門は小口需要家の開拓に努め、

新設の広域法人営業課での開拓を図るなど販路拡大と数量の増加に取り組んだ。その結果、原油価格の低迷に伴う売価低下が響き売上高は同4・6%減の215億2900万円となったが、石油製品の市況が好転しセグメント利益(営業利益)は同8・6%増の3億5千万円となった。

教習車に最適

エフ・ケイメカニクス 専門展で訴求



エフ・ケイメカニクス(本社・大分市、古川克己社長)は11月20日、東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「教習機器等展示会」に初出展し、

LPG併燃車の知名度向上のために出展した。昨年2月から販売するアクシオ改造教習車の燃料容量はLPガス43リットルとガソリン42リットルで、燃費はリットル

写真し、トヨタ・カローラアクシオのLPGバイフューエル改造教習車を展示した。LPG車特有の燃費特性を訴求した。

送迎用のトヨタ・ハイエースLPGバイフューエル改造車の説明も行った。年間走行距離が5万6千キロに及び、燃料費に頭を悩ませる事業者がLPガスの経済性に注目した。さらに東日本大地震発時にLPG車が活躍したことを紹介。燃料分散のメリットや国土強靱化計画の中でBCP対策

が企業価値の向上に貢献することを強調した。末宗睦郎取締役専務は「出展の最大の収穫は、ガスで走行できる車を知らない方が多いと実感したことだ。LPG車の減少に伴い、簡易オートガスタンド設備を生かさない教習所が増えていく。ガソリン以外にLPガスという燃費に優れた燃料を選べることを知っていただき、既存設備を生かして燃費メリットの高いLPGバイフューエル車を採用してもらいたい」と語った。

LPG併燃

器ンシャープ製品も
 ノーリツ HEMS対応



外部講師を派遣した。学生はノーリツの事業内容、ビジネスモデルを理解した後、アンケートデータを分析し同社への新規提案を競った。約100人が10チーム

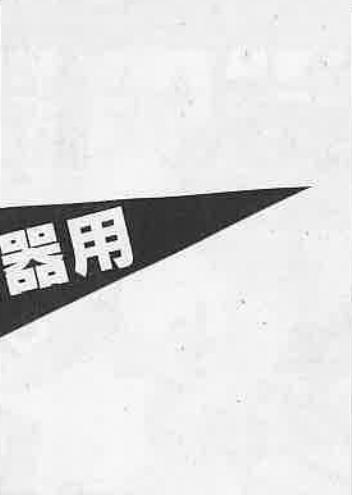
「RC-GOO1 EWSシリーズ」とECH



「見守りくん」を開発、入浴時の装着で万の際に自動で浴槽の湯を抜き溺死を防ぐ新サービスを提案。独居高齢者や介護施設での活用を想定した。分析賞は「疲れをふっ

プロパン・ブタン ニュース 2019年(令和元年) 12月2日(月曜日)

嫌う壁面への穴あけ不要 ホンエイ 容



2本用(HYS-20CB)

50kg容器×2本用(HYS-50CB)

20キロ容器用